



安齋 政保

[市政会]

アクティブパークのスケートボード施設は

安達文化ホールの改修は

問 初心者が体験できるような設備が無いので、市民が十分活用するためにも初心者が使える設備を備えてはどうか。

答 現在の施設については、初心者がすぐに取り組むにはハードルが高く、主に中・上級者向けの施設であり、市民の利用増加、エクストリームスポーツ競技人口の底辺拡大には、初心者でも簡単に利用しやすい設備の併設は必要であり今後施設の運用状況、費用対効果等を踏まえつつ、施設の充実を協議検討する。

問 安達文化ホールの吊り天井の耐震化工事に伴って音響設備の充実をはかれないか。

答 当ホールは平成16年のオープン以来市内外の多くの方に利用されており、音響設備については、近年、経年劣化が進んできたことから機器の更新や利便性の向上を図るための設備充実を検討、耐震化工事に伴う天井張り替えに並行した、音響、映像装置のケーブル等の設置は十分に調査し、効果的な予算措置をふまえて検討していく。

杉田駅周辺整備事業は

教育現場における防災教育の取組みは



本多 俊昭

[真誠会]

問 二本松市のサブ拠点としての重要性について市長の姿勢を伺う。

答 二本松市のサブ拠点として、二本松市都市計画マスタープラン等において、位置づけをしており、重点的に整備を進める地域である。現在進めている長命工業団地、長命1号線、杉田停車場線の整備に併せて駅前広場及びトイレ等の整備、西池・社前線整備事業等の早期完成を目指すとともに、杉田駅東地区及び舘野地区の整備についても今後検討していく。

問 東日本大震災以降、本市の親子引き渡し訓練の実施状況について伺う。

答 保育所は1保育所で1回、幼稚園は4幼稚園で14回、こども園は1園で1回、小学校は11校で28回実施しており、中学校での実施校はない。教育委員会では、幼児、児童生徒を安全に、そして、確実に保護者に引き渡すためのマニュアルを整備し、保護者と連絡が取れない場合は園や学校で待機させ、相手を確認しながら引き渡す指導を徹底していく。



菅野 明

[日本共産党二本松市議団]

子育て支援、産科医師確保の進捗状況は

高齢者の交通手段無料化、今後のプロセスは

問 市内に安心して出産できる病院が必要である。二本松病院への産科医師確保に向けた進捗状況と今後の展開は。

答 3月議会後、二本松病院と修学資金助成事業と研究費助成事業について、制度のPRなど具体的に協議している。JCHOの組織上の関係もあり時間を要している。今後は出来るだけ早く協議をまとめ、早急に例規を整備し、まず近隣他県の医科大学や医学部のある大学へ制度の周知・PRを行い医師確保に努めたい。

問 「コミュニティバス、デマンドタクシーを無料化の方向で検討」との3月議会の答弁だが、今後のプロセスは。

答 無料化の手法、準備経費、運用経費等を調査、調査結果を判断し、公共交通活性化協議会で議論し、運賃無料化を進めたい。

問 他自治体で実施して好評の無料パスの発行を。
答 無料パスICカードをバス車載の読み取り機で自動で運賃を精算する方式で、本市で路線バス無料化実施の場合有効なシステムである。

二本松地区の行政地区の見直しについて伺う

新市誕生に伴う学区の見直しについて伺う



五十嵐 勝蔵

[真誠会]

問 二本松地区の南小学校区と北小学校区の学区と行政地区の統一について、学区再編後58年が経過しており、関係機関団体等との協議を進め、できるだけ早い時期に統一を図るべく努力いただきたい。市の考えを伺う。

答 学区と行政区区分の統一については、対象となる地区の民意や、地区に隣接する行政区の理解や合意、統一によるメリットやデメリットの検証も必要と考える。まずは、対象地区の皆さんの民意が重要。その動向を見守りな

がら地区の皆さんや関係部署、関係機関と検討していく。

問 児童生徒の通学の利便性、保護者の負担軽減を図るため、学区の見直しを行う考えがあるか伺う。

答 学校規模・通学時間・通学距離・通学安全・地域コミュニティとの関係を総合的に勘案し、一部地域のみならず、市内全域を対象とした視野に立って、学区の見直しについて調査・研究をしていきたいと考えている。



斎藤 広二

[日本共産党二本松市議団]

子どもの国民健康保険税の軽減は

除去土壌の再生利用実証事業、市長の感想は

問 子どもの医療費無料化による国のペナルティ790万円が解消された。この財源で子どもの均等割33,800円/1人を軽減できないか。

答 今後、県内他市町村の動向を注視しながら検討する。

問 給与年収400万円(本人が30歳代、妻が専業主婦と子ども2人)の国保世帯が社会保険に加入した場合の保険料の試算は。

答 国保世帯は38万5,000円、社保19万2,374円。40歳代同世帯の国保で48万円、社保22万円。い

ずれも国保が社保の2倍以上の負担。

問 再生利用実証事業で、市民からは不安の声や心配の声が寄せられている。環境省による様々な説明会が開かれてきたが、市民から出されている意見に対して市長の感想は。

答 市民からの意見は、選定経過で、なぜ二本松原セなのか、災害の安産対策、除去土壌の最終処分ではないのか、風評被害、説明会の開催等不安を持っている方が多くいると認識している。環境省には慎重な判断を求めている。

再生可能エネルギー事業今後どう進めるのか

今年度におけるため池除染の実施方法は



佐藤 源市

[あぶくま会]

問 市における地産地消に必要な電力と市民電力会社における発電施設の割合と経営収益性は。

答 主に一般家庭、商店、飲食店等の1年間の利用量は1億2千127万4千kWhである。太陽光発電を中心に風力、小水力、バイオマス発電等あらゆる新エネルギーの可能性を調査、検討し、市民からの出資、市の出資も検討する。収益については追及検討を図り進める。

問 平成29年度のため池詳細調査結果及び平成30年度の対策工の内容について伺う。

答 調査を実施した12ヶ所すべて、対策工の基準となる低質土の放射性セシウム濃度、8,000ベクレルを超えた。対策工の内容は、低質土を浚渫し発生土を搬出する工法と土を固化させ放射性物質の流出を制御する工法等が見込まれる。



早急な除染が待たれる夏無沼(針道)



平塚與志一

[真誠会]

二本松城跡総合整備事業の進捗状況は

岳温泉（仮）ビジターセンターの概要は

問 二本松城跡総合整備事業について、市民とのワークショップ等は行ってきたのか。市民の各階層の方々の意見は聞いたのか。

答 市民とのワークショップは、3回行ってきた。今後は、これまでの提案やご意見等を踏まえて、より多くの市民の皆様の考えを聞いて進めていく。

問 岳温泉に計画されている（仮）ビジターセンターの概要について、何時計画されて、どのような結果を得て現在の状況になっているのか。ま

た、過日行われた地元説明会の結果はどうだったのか。

答 温泉地観光施設整備事業については、平成27年に基本計画を策定し、「あだたら高原をブランドイメージとする。」をコンセプトとして、交流拠点・情報発信・収益性が確保できる機能を兼ね備えた施設にしたいと計画を進めてきた。説明会の結果については、慎重に計画を進めて欲しいとの意見が多く、今後も多くの市民の皆様方の意見を聞き進めていく。

議案第60号 二本松市国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について

議案第67号 平成30年度二本松市国民健康保険特別会計補正予算

賛成

菅野 明 議員

今年度の国保税は、医療分・後期高齢者支援金分・介護分を合わせた税額は、前年対比1人当たり9,593円、7.71%減の11万4,770円、同1世帯当たりでは16,415円、8.57%減の17万5,026円の値下げとなり、これまで値上げを繰り返してきたことを考えれば、今回の値下げは大いに評価し賛成する。

今年度末の国保基金残高は6億円余り、この財源で他市でも行っている子どもの均等割軽減の実施を求める。

6月定例会 討論

討論は、表決の前に議題になっている案件に対し、賛成か反対かの自己の意見を表明することをいいます。

請願第6号 リアルタイム線量測定システムを撤去しないことを求める意見書提出に関する請願書について

賛成

平 敏子 議員

市民から、「空間線量を自分の目で確認できる唯一のものだから撤去しないでほしい。」「最近では地震も多く、事故を起こした原発が廃炉になるまでは何が起こるかわからない。撤去しないでほしい。」等、モニタリングの継続を望む声が数多く聞かれる。

原発事故を体験した私たちは、放射線量を目で確認できるモニタリングポストは特別の存在です。

三春町、西郷村、いわき市、須賀川市、会津若松市で同様の請願が全会一致で採択されており、本市でも、市民の声を受け止め、採択すべき。

反対

高橋 正弘 議員

県では、平成27年9月、原発事故で打撃を受けた県産品や観光の振興に向けての風評・風化対策強化戦略を策定した。米や桃・りんご、そして各種野菜等農林水産物や加工食品などの販売回復・開拓、そして観光誘客の促進に取組み、海外での販路拡大にも取り組んでいる。

原発事故から7年が経過し状況も改善されている。設置者である環境省の方針に従って3,000台設置されたリアルタイム線量測定器を早急に撤去すべきである。

6月定例会賛否一覧

※これ以外の案件等は全会一致で可決されました。

議案等名	議員名	議決結果	議員名																										
			賛成	反対	本多 勝実	鈴木 一弘	佐藤 運喜	石井 馨	加藤 建也	本多 俊昭	熊田 義春	小野 利美	安齋 政保	菅野 勇吉	堀籠 新一	佐藤 有	菅野 明	小林 均	浅川 吉寿	平 敏子	平塚與志一	斎藤 広二	佐藤 源市	斎藤 賢一	斎藤 周一	高橋 正弘	五十嵐勝蔵	平栗 征雄	
議員提出議案第2号 リアルタイム線量測定システムを撤去しないことを求める意見書の提出について		原案可決	16	7	○	退	○	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
請願第6号 リアルタイム線量測定システムを撤去しないことを求める意見書提出に関する請願書について		採択	16	7	○	退	○	●	○	○	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

※○は賛成、●は反対、退は退席。 ※議長（野地久夫）は採決に加わっていません。